

## きぼう利用推進有識者委員会 第1回会合 議事概要

1. 開催日時：平成27年3月8日(日) 9:30～12:00

2. 開催場所：日本宇宙フォーラム 第1会議室

3. 出席者

(1) 委員

永井委員長、浅島委員、大竹委員、澤岡委員、西島委員、平岡委員、森委員

(2) JAXA

長谷川理事・本部長、田中執行役、五味部長、三好センター長、小川室長

4. 議事概要

(1) 本委員会の役割、および当面の活動内容について(審議・報告)

本委員会の役割、今後の進め方について事務局より報告した。また、本委員会の運営案について審議し、案のとおり了承された。

(2) 国際宇宙ステーションを取り巻く状況について(報告)

宇宙基本計画及び国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会中間取りまとめの概要について、事務局より報告した。主な発言、質疑応答は以下の通り。(○:質問・意見等 ●:回答)

○ISS は文部科学省の仕事であるが、JAXA の仕事の中には国土交通省、総務省の仕事もある。ISS の効果の範囲を狭くとらえる必要はなく、全体的な効果を考えていけばよい。

(3) これまでの「きぼう」利用の取組と成果について(報告)

(4) 当面の「きぼう」利用戦略について 生命科学・医学の視点から(審議)

これまでの「きぼう」利用成果、及び生命科学・医学の視点からの当面の「きぼう」利用戦略について合わせて事務局から説明し、「きぼう」利用戦略について了承された。主な発言、質疑応答は以下の通り。(○:質問・意見等 ●:回答)

○費用対効果は、いままでどのような指標で計測し、どのように向上させようとしているのか。また、費用対効果を示すことは、単年度で求められているのか。

●費用対効果を定量的に示すのは難しいので、事実がどうなのかを説明し、そこに価値があると認められれば国の予算を投下するという議論になっている。単年度での費用対効果は求められていない。2020年までに価値のあるものを作って成果をあげ、更に2024年まで継続する価値があることを示したい。

○国民がISSの効果全体を捉えられるようにすることが重要である。効果を算出できないために国がISSを主導しているというポジショニングを示すこともこの委員会の重要な部分ではないか。

○JAXA が苦勞しているのは産業競争力強化のシナリオの提示を求められている点である。外交は算定不能であること、産業基盤の維持については宇宙産業がどう維持されているのかということ、科学技術は様々な貢献があることを整理して示した方が良いのではないか。その上で特にライフイノベーションに寄与することが競争力強化に繋がるという説明をすると良いのではないか。

○国民はコスト対効果をイメージしてしまうので、成果をどう捉えるのかを定義することが必要である。そうしないと利用成果をどう考えてこの活動をするのかが定まらないし、成果を示しにくくなる。数字を出すのが難しければ、数字を出すのではないということを明確にすればよい。

○挙げられている課題は未来志向型でよいが、社会に対しては宇宙飛行士の健康を守ることも出した方がよい。現実の問題と、残された課題を洗い出しておく必要がある。

#### (5) 「きぼう」利用テーマの募集について(報告)

「きぼう」利用テーマの募集について、事務局より報告した。主な発言、質疑応答は以下の通り。  
(○:質問・意見等 ●:回答)

○JAXA は、装置等の物作り予算に比べて、基礎的な研究予算は非常に少ない。魅力ある募集のためには、多少の予算を準備をする必要がある。研究者が本気で取り組めるような仕組みを考えてもらいたい。

●研究費としては出せないが、宇宙実験のための先生方の活動経費は支給する予定である。

○Spring-8 ではパワーユーザを作り、そのニーズに応じて信頼関係を築いていき、最後はユーザが自分のリソースを持ち出しながら進めてきた。宇宙でもパワーユーザを見つけることが重要である。

○現場の研究者からすると宇宙は敷居が高い。敷居を低くするには、宇宙分野に馴染みのない人ともよくコミュニケーションして、宇宙支持者以外に味方を作ることが大事である。

以上